



2019年7月11日

各 位

会社名 株式会社 ケ イ ブ
 代表者名 代表取締役社長・CEO 高野 健一
 (コード番号：3760、JASDAQ)
 問合せ先 常務取締役・CFO 菊地 徹
 (TEL:03-6820-8176)

特別損失（減損損失）計上及び
2019年5月期通期業績の前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、2019年5月期決算において、下記のとおり特別損失を計上することといたしました。併せて2019年5月期（2018年6月1日～2019年5月31日）の通期業績につきまして、前期実績との差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上について

(1) 特別損失の内容

当社の保有する共用資産において、減損の兆候がみられたため「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、42,426千円を特別損失として計上しております。

また、現在配信中のゲームアプリ「デビルブック」において、当該ゲームアプリの収益性の改善が難しいと判断し配信停止を決定したため、当該固定資産の帳簿価額7,916千円を特別損失として計上しております。

(2) 業績に与える影響

上記の特別損失につきましては、本日公表しました「2019年5月期 決算短信 [日本基準] (非連結)」に反映しております。

2. 2019年5月期通期業績と前期実績との差異について

(1) 2019年5月期通期業績と前期実績との差異の内容

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
2018年5月期 (A)	2,366	△69	△88	△70	△25.32
2019年5月期 (B)	1,890	△696	△739	△1,240	△351.86
増減額 (B - A)	△476	△627	△650	△1,170	
増減率 (%)	△20.1	—	—	—	

(2) 差異の理由

当社の主力であるスマートフォンゲーム『ゴシックは魔法乙女～さっさと契約しなさい～』は2019年4月にサービス開始から4周年を迎えますが、ユーザーを飽きさせない継続的なアップデートにより固定ファンを獲得しており、また、定期的なイベントやイベントでの他者IPの活用などのプロモーション効果により新規ユーザーも獲得することで一定の規模を維持し、当社の収益の柱となっておりますが、経年とともに売上高は減少傾向となっております。

そのため、新たな収益の柱を作るべく、新作スマートフォンゲーム『三極ジャスティス』を2018年6月にリリースいたしました。ユーザーのプレイ継続率が低く、アップデートを重ねたものの、収益を見込める水準まで改善することができなかつたため、2019年2月末でサービスを終了いたしました。また、2017年11月リリースの海外ゲームの輸入パブリッシングタイトル『ロード・オブ・ダンジョン』、及び2019年1月リリースの海外ゲーム輸入パブリッシングタイトル第2弾『デビルブック』につきましても、双方ともリリース直後の売上は好調だったものの、海外開発会社と当社との連携の難しさから発生した、運営方針の違いや機能の不具合によりユーザーの離脱を招きました。このことにより収益を継続することができなかつたため、『ロード・オブ・ダンジョン』については2019年5月30日をもって開発会社の株式会社EK GAMESに運営を移管し、『デビルブック』についても2019年8月7日をもってサービスを終了することといたしました。

上記のとおり、既存タイトルの売上減少と新規タイトルの売上不振により、売上高は前事業年度比で20.1%の減少となっております。

売上原価は、『三極ジャスティス』をリリースしたことに伴い、前事業年度まで資産計上しておりました人件費等を当事業年度より売上原価として計上することになったこと、また、減価償却費の計上も発生したことから、前事業年度比32.2%と大幅に増加いたしました。

販売費及び一般管理費は、広告宣伝費等の費用を抑制して運営したことから、前事業年度比で8.3%の減少となりましたが、売上高が減少したことに加え、売上原価が大幅に増加したことから、営業損失は前事業年度比で大幅に悪化いたしました。

なお、上記「1. 特別損失（減損損失）の計上について」に記載のとおり、当事業年度において終了した『三極ジャスティス』及びその他のサービスにかかる資産について、499百万円の減損損失を計上しております。

以上の結果、2019年5月期の売上高は1,890百万円（前事業年度比20.1%減）、営業損失696百万円（前事業年度は69百万円の営業損失）、経常損失739百万円（前事業年度は88百万円の経常損失）、当期純損失1,240百万円（前事業年度は70百万円の当期純損失）となり、前期実績との差異が生じることとなりました。

以 上